■石黒宗麿　　異端に徹した陶芸家。作品の多くは，出生地の富山家射水の新湊博物館に収蔵されている。
いしぐろむねまろ
郡司千島探検1893＝　　富山県射水郡二塚村(高岡市)，中越汽船社長筏井甚造の四女で16歳のめなの子に生まれる。父親は不詳。
日清戦争始・1894＝ 1歳：
日清戦争終・1895＝ 2歳：生母めなが，射水郡作道村久々湊の富農の長男石黒伯と結婚し，
白馬会・・・1896＝ 3歳：伯の養嗣子となる。めなはすぐに離婚し，翌年には，金沢の飼料商と再婚してしまう状況のなか，

教科書疑獄・1902＝ 9歳：
日比谷公園・1903＝10歳：作道尋常小学校を卒業。
日露戦争始・1904＝11歳：養父伯は，東京葛飾出身の女性と再婚し，
日露戦争終・1905＝12歳：日露戦争から復員すると，医者となり開業したらしい。
韓国反日暴動1907＝14歳：新湊高等小学校を卒業し，富山県立魚津中学に入学。
韓国併合・・1910＝17歳：養父伯と継母の間に，妹が誕生。名門の県立富山中学三年に編入を果たすが，
大逆事件判決1911＝18歳：ストライキを首謀し，止めに来た教師を殴り，養父からの学費も遊びに使い果たし，除籍されたらしい。
明治天皇没・1912＝19歳：
徴兵検査に合格し，金沢の野砲兵第九聯隊に入営，朝鮮に送られる間，生母めなが死去。
民本主義・・1916＝23歳：除隊となり，_金沢に帰着，窯元で楽焼作りを見て，焼き物に興味を持ち，
本格政党内閣1918＝25歳：_東京両国での入札会で高額落札される曜変天目茶碗(現在，静嘉堂が所蔵し国宝)を下見会で見たらしく，
大暴落・・・1920＝27歳：
原敬首相暗殺1921＝28歳：小伯父の山林を無断で抵当に，芸妓を身請けして問題化。_佛山銘の彩色絵物語「斐翠姫」制作か。
関東大震災・1923＝30歳：東京で関東大震災に遭遇し，埼玉県比企郡小川町の陶器店主人の勧めで，同町に移住。
護憲三派圧勝1924＝31歳：行商に来た富山の売薬商田辺久松の援助で，_楽焼を作り，笠間焼として販売したが，売れず，極貧生活。
治安維持法・1925＝32歳：富山の田辺宅に滞在中，勧められて，金沢に移住。_伊賀や唐津，備前などの古陶を模写制作，買い取った骨董商が贋物として売り，残った品を，総曲輪の市商品陳列所で販売などするうち，
共産党事件・1928＝35歳：_京都の通称蛇ケ谷へ移住。隣家の借間に居た小山冨士夫と知り合い，ともに唐宋陶磁の技法と品格の解明に取り組み始め，中国古陶を模して共同窯で焼成し，小山の友人の世話で販売，以後，生涯の友になる。
世界恐慌・・1929＝36歳：京都在住作家六人展で，小山の全出品作一三点が川喜田半泥子に買上げられるが，
海軍軍縮条約1930＝37歳：大丸心斎橋店での，小山と二人展で，一点しか売れなかった小山は陶工を辞め，研究者を目指して上京。
満州事変・・1931＝38歳：_小山が，宗麿作の香合を倉紡社長大原孫三郎宛に届けた大原美術館初代館長武内潔眞が見て評価，
五一五事件・1932＝39歳：_富山市商品陳列所で初の個展開催。倉敷での さつき会バザーに招かれ，作品を販売。高く評価した大原から贈られた子犬を抱いて帰洛するも，死んでしまう。翌年，代わりの犬が贈られ，お礼に，武内を介して，大原に贈った絵唐津風茶碗は，真っ二つに割れていたが，大原は金継して大切する。その翌年，再びさつき会バザーに招かれ，大原邸で朝鮮陶磁を見るなどしたが，その翌年に贈った三碗は，両者から厳しい評価。武内に「正しい模倣は創造に到る道」との信念を書き送った後，唐津に赴き，古唐津研究家古舘九一らの元へ通う傍ら，十二代中里太郎右衛門のお茶碗窯を拠点に，研究と制作に没頭。
二二六事件・1936＝43歳：伊勢型紙販売する長谷川忠夫(のち通い弟子)と義兄の支援で，*八瀬村に，土地の購入し，居宅と茶室を建てて移住，富山市商品陳列所で初の個展を開き，引続き開催の郷土作家展に「鉤窯大壷」を出品するや，
日中戦争始・1937＝44歳：_パリ万博に「唐津風陶器盛鉢」を出品し，銀賞。
健保+総動員 1938＝45歳：養父伯が死去。
第二次大戦始1939＝46歳：翌年にかけての，_サンフランシスコ万博，ニューヨーク万博に，「緑甕彩金壷」「柿釉彩金大鉢」を出品。
大政翼賛会・1940＝47歳：通い弟子に清水卯一。東京での小山の沙鍋窯見聞報告会で，偶然出会った_川喜田半泥子が持参した黒楽茶碗「無茶太郎」に衝撃を受け，津市の半泥子宅訪問。礼状に，茶碗には完全に兜を脱いだと記す。
日米開戦・・1941＝48歳：生母めなが再婚して生んだ金沢の義妹宅を訪れ，_姪阿部雪子と初めて会う。中国での定窯趾発見の旅から帰宅途上の小山が来訪，採取してきた宋代陶片を見て「片片凡神技」の五言絶句，詩作はピークに。
・・・・・・1942＝49歳：*第一回日本輸出工藝聯合會工藝展で，「柿釉鉢」が最高賞の商工大臣賞と日本工藝賞を受賞。
支援を受けて，大幅に拡大した敷地に，窯と茶室を移設し，戦時下，一定額の生産が許可されるマル技指定を受けるも，食糧難で，友人を伴って幾度か富山の友人宅などに滞在，
敗戦・・・・1945＝52歳：_空襲の音を遠く聞きながら，戦中最後の本窯を焚く。
新憲法公布・1946＝53歳：とうとの婚姻届け。戦後直ちに窯焚きを始め，設立された農村工業振興会に，指導委員として参加。
新憲法施行・1947＝54歳：小山らと，振興会の事業を引き継いだ日本陶磁振興会の理事に。青年作陶家集団メンバーが八瀬に来訪。
極東裁判決・1948＝55歳：金沢美大生の姪雪子に教えるべく，金沢の妹宅に轆轤，楽窯設置。振興会展に出品(翌年も)。
朝鮮戦争始・1950＝57歳：ジェーン台風で罹災も支援で復旧。_パリでの現代日本陶芸展に「白地チョーク描バラ文鉢」ほか多数出品。
独立回復・・1951＝58歳：_引続き南仏で開かれた同展終了後，「柿釉壷」をパリのセーブル美術館に寄贈。イタリアのファエンツ国際陶芸美術館の日本部が設置に，京都在住作家とともに，自作を寄贈するなど，世界的にも評価が高まる。
ﾒｰﾃﾞｰ事件・ 1952＝59歳：弟子長谷川が病没。_天目ゆ(釉)の技で国の無形文化財に選定される。大本教幹部だった北國新聞社長の依頼で，亀岡在住の大本三代教主出口直日への陶芸指導に赴き，以後，自身が没するまで続く。
TV放送始・・1953＝60歳：姪雪子が，戦後の第一回政府派遣留学生として，パリへ出発するにあたり，作品三点を富山県に売却し，旅費を用立てた。_第二回現代日本陶芸展に出品，以後連年出品。東日本陶磁協会主催の絵画・陶磁展にも出品。{淡交}に「一つの抗議・一つの願い」を寄稿，以後，寄稿多数。
自衛隊発足・1954＝61歳：荒川豊蔵らと会を結成し，北大路魯山人と相互訪問。_第一回無形文化財日本伝統工芸展以降，連年出品。
55年体制始・1955＝62歳：*富本憲吉，濱田庄司，荒川豊蔵とともに，鉄釉陶器で初の人間国宝(重要無形文化財保持者)となり，その日本伝統工芸展に出品。日本伝統工芸協会設立発起人会に参加し，理事に。新湊市の名誉市民に。
国連加盟・・1956＝63歳：_自ら発起人となって財団法人八瀬陶窯を設立，若い陶芸家の研究の場にと土地や家屋一切を寄付。
ミラノでトリエンナーレに出品。{大阪朝日}に，本阿弥光悦を論じた「偉大な素人芸」寄稿。_宮内庁の委嘱で「鵬鷸斑壷」を制作。丸栄百貨店新画廊での個展で完売。朝日ニュース「消えゆく人間国宝」で紹介。
安保闘争・・1960＝67歳：姪雪子が，夫の父親を介護するため帰国。_NHK総合テレビで，短編映画「石黒宗麿鉄釉陶器」放映されたりするが，タクシーに乗る際に左膝に大怪我し入院。三度の手術を受けるも，担架で退院。
ｲﾀｲｲﾀｲ病始・1961＝68歳：姪雪子を呼んで介護を受けるうち，_糖尿病も悪化。金沢で，温泉に行ったり，低周波電気治療受けたりした後，八瀬に，電動轆轤を据え，諸展に出品。日本伝統工芸展に出品のうち一点は，代表作「吊るし柿文様の彩甕壷」と思われる。北日本文化賞を受賞し，北日本新聞夕刊に随想「櫟蔭閑話」を連載。
全国総合計画1962＝69歳：第九回_日本伝統工芸展では「私と曜変天目」講演。糖尿病治療のため，大阪の北野病院に入院，
TV宇宙中継始1963＝70歳：白内障の手術も受ける。第一回現代名匠陶芸展に出品。国立近代美術館京都分館開館記念展や日本伝統工芸欧州展に作品が展示される一方，岡山での日本工芸会中国支部展で，備前焼作家を前に行った講評が物議。紫綬褒章。曜変天目茶碗の再現を目指す心境などが放送された，大阪朝日のラジオ番組「秘伝」は，
東京ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ 1964＝71歳：民間放送大会ラジオ部門の優秀作品，日本民間放送連盟会長賞。絵唐津風の秀作「江上微漣」鉢を落札した京都の善田昌運堂が，関西在住の著名な実業家に納入。毎日新聞主催の人間国宝名作展，東京国立近代美術館の現代国際陶芸展に作品が展示され，第二回現代名匠陶芸展には，さらに独特な作品を出品。NHKラジオ第一{日曜訪問}で，哲学者矢内原伊作との対談放送。
大学紛争始・1965＝72歳：東京新聞に，インタビュー記事「人間国宝の顔⑩ケンカ好きの"炎の人"」掲載。毎日新聞主催の人間国宝新作展に出品，第二，三回にも。出口直日が妹尚江を伴って八瀬に見舞いに訪れ，以後，尚江も指導。
いざなぎ景気1966＝73歳：岡山での人間国宝五人展に十点を出品。NHKテレビで，小山らとの鼎談「この人この道石黒宗麿」放送。
美濃部都知事1967＝74歳：第一回陶裳会(陶芸，染織，茶道，邦楽，舞踊の総合展観)に出品(第二回も)。_勲三等瑞宝章打診に辞退。亀岡の出口直日の私邸梅松館に工房が完成，愛隣会に，黒赤一対の楽茶碗を二百組作り，一組50万円で販売，売上金一億円を寄付する約束を果たすべく，大本ゆかりの土を使って黒楽，赤楽茶碗を作り始めるが，
霞ヶ関ﾋﾞﾙ・ 1968＝75歳：_叶わず，愛隣会創立二十五周年のチャリティーショーに，尚江の工房で作った色絵花鳥文壷を出品。日本工芸会理事を辞任し，衰弱で痰を喉に詰まらせて窒息し，没した。勲三等瑞宝章，正五位が追叙された。
没後も清水卯一らが財団を維持したが，平成15年に解散。翌年，京都精華大学が基本財産を引き継いだ。

小野公久「評伝 石黒宗麿異端に徹す」，